

令和7年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号:8月31日(日)①

担当部局・担当課名:農林水産部農業技術課

事業名	とやま型スマート農業推進事業	評価結果	一部改善
-----	----------------	------	------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

【委員の意見】

- ・スマート農業技術の導入効果が高い1ヘクタール以上の大区画圃場は県内に約1割しかないため、圃場整備とセットで一体的に事業を進める必要があるのではないか。
- ・農業全体の生産量や生産性の改善(労働力不足への貢献度など)に係る成果目標を明確に設定したらよいのではないか。
- ・高額なロボットトラクタ(1,000万円超)に対する補助金の上限額(83万円)の設定は、導入を促進するには低いのではないか。
- ・高額な農業機械の導入による生産性向上を目指すなら、個人所有ではなく共同利用やシェアリングを促進するための事業体やサポート体制づくり(保険や予備機など)を県が主体となって進めが必要ではないか。

【県民評価者の意見】

- ・RTKサービス(高精度位置補正情報サービス)の運営も重要ではあるが、まずは設備投資、導入の予算を増やしてはどうか。

県民評価者の評価シートによる評価

県民評価者総数 19

評価区分	行政の関与不要	役割分担見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり・拡充
	1	2	3	9	4 (現行0、拡充4)
県民評価者の主なコメント	同じ評価結果と	<p>【一部改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型トラクター等との連携があってこそなので、農業機械導入に係る補助は機械の種類ごとに補助率を分けることも考える必要があるのではないか。 ・スマート農機導入経費補助の補助率をもっと上げるべきだと思う。 ・農機のシェアリングに関しては、アプリなどを作って取り組みやすくした方がよいのではないか。 ・スマート農機の導入を行う事業者数が増えることに比例してデータ量も増加すると思うので、データをよく収集・分析し、収穫予測等に活かすことが必要。 			
	上記以外	<p>【現行どおり・拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番わかりやすいロボット(ドローン)を操作できる人を増やし、ドローン操作の大会などを企画するなど、農業にかかる接点を増やすことで雇用拡大にもつながるのではないか。 ・スマート農機導入補助が上限83万円では普及が進まないのではないか。 <p>【抜本的改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公の機関が安価でリース(1年間は無料など)し、スマート農機の導入効果を実感できるようにすべきではないか。 <p>【役割分担見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に圃場整備ができなければスマート農業は実現しないので、国が主体となって実施すべきではないか。 <p>【行政の関与不要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業化は、技術開発とペアで、民間や公的研究機関がもっと進めるべきではないか。 			

【参考】委員による評価

委員総数 4

評価区分	行政の関与不要	役割分担見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり・拡充
	0	0	2	2	0

事業名	とやま型スマート農業推進事業	評価結果	一部改善
-----	----------------	------	------

【事業レビュー結果を受けた県の対応】

今後の 対応方針	抜本的改善	事業内容見直し		
	<p>スマート農業の推進施策を抜本的に見直し、さらなる活用促進に取り組む</p> <p>①とやま型スマート農業推進事業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き普及・促進を図り、スマート農業支援サービス事業体の育成などに取組む一方、高精度位置補正情報サービスは、普及状況等を踏まえ民間サービスへの移管を促す <p>②とやま型スマート農業普及拡大支援事業の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農機導入を加速化するため補助制度を創設。また、データ利用による省力化、農地のデジタル化に伴う企業等の参入促進などとも一体的に取組む 			
令和8年度 当初予算 要求時 の対応	R8当初予算 (要求額)	①42,101(千円) ②141,490(千円)	R7当初予算	51,201(千円) 増額 132,390(千円)
	増減理由	スマート農業の普及・拡大に集中的に取り組むため制度を抜本的に見直し		

当初予算編成プロセスの見える化

令和 8 年 度 当 初 予 算	要求 状 況	要求額	①42,101(千円)、②141,490(千円)	前年度予算額	51,201(千円)
		事業の目的	農業の省力化、生産性向上を図るためスマート農業の普及拡大を推進		
		事業内容	<p>①とやま型スマート農業推進事業(見直し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の研修等の普及・促進 ・スマート農業支援サービス事業体や施設園芸への導入支援 ・高精度位置補正情報サービスの運営(規模縮小) <p>②とやま型スマート農業普及拡大支援事業(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の大区画化と一体的なスマート農機の導入等の支援 ・集落営農等のスマート農機導入の支援 ・農業DXアドバントエッセンシャルワーカーの創出 ・農地のデジタル化等の地域営農体制の強化 ・省力的水稻栽培管理システムの実用化 		
		積算内訳	①42,101(千円)、②141,490(千円)		
		予算編成過程における 議論など	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業普及促進に係る事業全体を体系的に整理し、事業内容の見直しを実施 ・スマート農機導入支援の必要性や導入効果を整理し、農機導入補助を充実させるとともに、DX・デジタル化支援を含めた企業の参入促進なども一体的に取り組むよう見直しを実施 		
		最終 的 な 予 算 案	予算額	①42,101(千円)、②141,490(千円)	一部R⑦.2月補正
			要求時点からの 変更点	変更なし	